

## 愛知県指定天然記念物

# 三河地震による地震断層

Earthquake fault by Mikawa earthquake



## 愛知県指定天然記念物

三河地震による地震断層 昭和50年12月26日指定



三河地震による地震断層が愛知県指定天然記念物として昭和50年12月26日に指定されたことを記念して石碑が建立されています。

三河地震における地震断層は、東大名誉教授津屋弘達氏によって深溝断層（ふこうずだんそう）と名付けられています。その後の調査で深溝断層は活断層であり、その総延長が約28kmに達していることが明らかになりました。

この断層は、前方の田のほぼ中央を東西に走っており、南側の三ヶ根山地を含む地塊が隆起して、東北東方向へつき上げた結果できたものです。ここでの最大落差は約1.5km、最大左ずれ水平変位は約1mです。これ等の変位量は、それぞれ2本の杭の間隔でしめされています。幸田町教育委員会

1945年1月13日3時38分、三河湾内を震央とした、内陸直下型の大地震が三河地方を襲いました。「三河地震」と名付けられたこの地震は、最大震度7とされ2000人を超える死者、4000人近くの負傷者を生み出すなど、西三河南部を中心に大きな被害をもたらしました。三河地震は1944年に発生した東南海地震と同様に戦時中であつたため、情報統制がとられ、被害状況を公にすることができませんでした。地震の被害調査は愛知県警備課などを中心に戦時中も実施されていましたが、戦後になるまで詳しい震災被害の報告がなされませんでした。